

2016年(平成28年)2月4日(木曜日)

硫化水素の発生源除去

東亜グラウト工業

下水圧送管アイスピグ洗浄

東亜グラウト工業は1日、硫化水素の発生源となる下水圧送管の汚れを取り除くため埼玉県岡市下水道課が発注した

洗浄業務をアイスピグ管内洗浄工法で実施した。高圧洗浄が使えないなどの理由で運用開始から約30年間洗浄できていなかった管路を約30分でクリーンアップ。管路内洗浄を阻んでいた多くの課題を克服できる新工法を埼玉県内で初採用した業務で、周辺自治体の関係者らが多数見学した。対象管路は道路に沿って屈曲する管径150ミリ、延長542メートルのダクタイル鋳鉄管。管路の排出口側にあるマンホールが硫化水素の発生源で腐食する。市は、長期の使用で管路に堆積した夾雑物(きょうざつぶつ)物が原因と考え、大きな曲がりがある長距離の下水圧送管に向く洗浄方法を検討。3年前から国内で本格投

真っ黒なアイスピグで洗浄効果を確認



入されたアイスピグ管内洗浄工法の効果を今回の業務で確認することとした。

同工法は、特殊アイスシャーベットでつくるピグ(洗浄のための挿入物)が配管内の汚れをそぎ落とし、堆積した夾雑物を包み込んで管外に排出する。水を材料とするため管や人体・環境への影響がない。口径の変化やカーブにも追従し洗浄でき

る。

今回の業務では、特殊アイスシャーベットの管内注入から、アイスピグの形成・押し流しまでの一連の作業を約30分で完了。見学者は、排水ホースの中間に設けられた透明の管(アクリル製)で、管内の汚れをそぎ落とし真っ黒になったアイスピグが通過し、数分後には透き通った水が流れることを視認した。

昨年の下水道法改正で、硫化水素が発生しそうな箇所は5年に1度点検することが求められるようになったことから、今後は潜在的な洗浄需要が顕在化してくるとみられている。同社は従来の工法では洗浄が困難なケースに対し、新工法の採用を促す考えだ。